

## 第 1 回 P T における主な意見（部活動関係）

## 1 活動時間等のルールづくりについて

- 学校の会議がある時は休みにするとか、決められた下校時間をまでに絶対にやめるとか、土・日もいずれかで何時間とかいう決め方はできないのか。
- 部活動が長くなっていることは誰もが認識しているところであり、朝の部活動をやめたり、帰りの部活動は日を決めてやめたり、土日についてはどちらか一日にしようというような取り決め、申し合わせは随分行われてきている。
- 豊橋市では部活動についてのガイドライン（部活動指導の手引き）を作っており、朝の練習や下校時間についても明確に示されているので、そういった各市町村における取組が必要ではないか。

## 2 教員の多忙感について

- 文部科学省の調査では、中学校では部活動の従事率が 91.3%、負担感を感じている割合は 48.5% という実態がある。小学校では従事率は 28.3%、負担率は 43.9% であり、学校である程度選択して行っているのが実態である。
- 特に高等学校で大きな問題は高校総体である。夏と冬にあるが、これが子どもたちにとっては部活動で目指すものになる。私立の高等学校では充実した設備やコーチ等を持ちながらやっており、それに伍していこうとする子どもたちの気持ちを考えると、顧問としては頑張らせてやりたいという気持ちが出てこざるを得ない。
- 部活動にやりがいを感じている先生方も多いが、部活動の後にいろいろな業務をするので多忙を感じている、ということがあるのではないか。
- 部活動を共通でやっているがゆえに、部活動が終わらないと教科部会とか学年会が開けないという、時間拘束があると思う。

## 3 部活動の意義について

- 部活動については、大いに検討していかなければならない。これがある限りは、在校時間の縮減は本当にほど遠いものになってしまうのではないかと。とは言え、部活動の意義もあるし、部活動に対する子どもたちの思いもある。そういうことを考えると、本当に大変だと思う。

- 中学校の部活指導は、勝つことが目的というよりも、生徒指導的な機能に比重があるように見える。学校の中にいさせて、スポーツ活動を通じて、エネルギーを発散させるというところに、非常に重要な機能を持たせており、中学校の部活動は特殊な位置づけだと思われる。
- 生徒指導という面もあるが、部活動は人間形成に付随する要素も入っているということで、あくまでも**集団の中での社会性**とか、教科の中では味わえないような、競技において、結果はどうであれ、一生懸命取り組んだ結果を皆で味わうというようなところに意義があると思う。

#### 4 外部指導員の活用等について

- 日本では**地域でのクラブ活動**ではなくて、**中学の部活動**が中心になってきた。「チーム学校」という議論もあるが、実際に外部指導者だけで運営されるわけではなく、**中学校では活動時に、安全面を含めて先生が必ずついていなければいけない**。技術指導の負担感を解消するにはいいが、実際はそういったところが悩ましい。
- 以前は顧問がそこにいなくても、部活動が動いている時もあったかと思うが、今は事故が非常に厳しく問われる中で、安全管理上必ずそこにいなければいけない。例えば、保護者がいたとしても、安全確保義務が優先されるがゆえに、あまりお願いできないということもある。
- 例えば、日本体育協会の公認スポーツ指導者制度などを利用して、**学校の中に入る職員として、ある程度の資格や資質を身に付けた人を活用してはどうか**。

#### 5 活動の効率化について

- 練習を長い時間すればいいというものではなく、ある程度時間を決めて、あとは自分たちの自主的なスキルアップを図る、自宅でもやれることでもあるのではないかと。みんなが集まってやるところにも意味があるのかもしれないが、個々がそれぞれでやり、それを部活動の先生が指導することも大事なのではないか。
- 練習は質より量だというようにやっていた時代もあったが、効率的に見直していくことも必要である。体育館でも部活動のローテーションがあつて長く使えないので、練習のエッセンスを集約していく。子どもも教員も効率的にスキルアップを図っていくことが課題ではないか。

#### 6 部活動手当について

- 部活動は職場にいるわけであり、純然たる労働であると思う。それに対して、休日の部活動の手当は3,000円というのは、日本という文明国においてあり得ないだろうと驚いた。